

令和2年度 東村山市立青葉小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で、ころ豊かに未来を生きる児童の育成を目指し、以下の教育目標を掲げる。  
 ◎進んで学ぶ子(今年度の重点目標) ◎豊かにかかわる子 ○じょうぶな体をつくる子 ○いのち・人権を大切に子

目指す学校像(ビジョン)  
 【目指す学校像】『夢をはぐくみ、子供が主役の楽しい学校』『保護者、地域の方々と協力し信頼に応える学校』  
 【目指す児童像】「返事、あいさつ、後始末」「安心・安全、守ろうルール」を実現し、「笑顔で、明るく、元気に」学校生活をおくる児童  
 【目指す教師像】「使命感と豊かな人間性・教養」をもち、「子供に対する深い愛情」をもとに、組織として学校教育を推進する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題  
 <成果>○校内研究やOJTの取組により、教員の資質・能力の向上につながり、研修意欲が高まった。○特別支援教室導入の意義やねらいを様々な機会に周知することで、理解の促進につながり、全校児童にも特別支援教室への理解を促進できた。  
 <課題>○算数科、国語科における基礎基本の習得の徹底。学び合いと伝え合いの場の適切な設定を通して学ぶ喜びを味わう中で、どう思考力を育成していくかを追及する。○コミュニティ・スクールとして、教育活動をいかに豊かにしていくのか。

|      | 具体的方策   | 第1回評価 |   | 第2回評価 |       | 第2回学校運営協議会評価  |  |
|------|---|-------|---|-------|-------|---|--|
|      |   | 努力目標  | 成果と課題   | 努力目標  | 成果と課題 |   |  |
| 学力向上 | ① 日々の授業のなかで、進んで学ぶための伝え合いや学び合いの場を設定し、言語活動の充実を図る。                         | 2     | ○肯定的な回答の割合が65%である。<br>○ミニホワイトボードやノートの交流を通して、児童同士で共通点や新たな考えを見つけ、考えを深めることができた。<br>○ミニホワイトボードや付箋、ノートの交流を通して、児童同士が友達との考えから自分の考えを深める時間が多かった。<br>○国語の書いた作品(報告文や新聞の感想)を付箋を使って交流した。日記を一枚文集として、配布し、読み合い交流している。朝の会で毎日その場で全体へのスピーチを行い、効果的に伝えるように意識して話す場を設定している。<br>■コロナ禍で、交流を控えていたのもあり、なかなかできなかった。<br>■新型コロナウイルスの影響により、児童の活動に制限があったため。 | 3     | 4     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約80%である。児童には進んで学ぶことができたかについての質問で、肯定的な回答が約91%となっている。<br>○全教員が1年間を通して、「進んで学ぶ子の育成」の達成のために個人課題を設定し取り組んできた。<br>○特に道徳の授業では、積極的に行うように努めてきた。<br>○個々の課題に応じた課題提示に努力した。<br>○3年生以上の児童に、算数習熟度別指導の効果について質問した。肯定的な回答が約95%と高い数値となっている。 | ・学力の向上として、授業の目的や課題など、学年として取り組んでいると思いますが、フォローアップの仕方は先生方によって違ってくると思うので、振り返り時間が設定できなかったときは、他のクラスや学年の先生の意見を聞いて参考にするとよいと感じました。息子の話になりますが、苦手科目などを少人数制の算数だったり、個人課題を与えたりと通常の授業以上に負担を先生方にかけてしまっていますが、そのおかげで苦手意識が克服できてきています。一人一人の学力を見極め、その子に合った学習を与える、導くことの大変さ。これからもよろしくお願い致します。<br>・「進んで学ぶ子の育成」のために個人課題を設定されている事は、児童にとっても、学びやすいと思います。<br>・目指す児童像「進んで学ぶ子」について。PTAの評価も高く年々向上していると思いますが、反面おいて行かれている児童がアンケートによると高学年で35～40%いる現状・・・その生徒への対応はどのようにしていくかが課題となります。<br>・②の努力目標評価が2となっていますが、子供たちは高い評価をしています。授業は狙い通りに行かなくても、要は、子供たちがその内容を理解できたかだと思います。先生方はプロだから、厳しい評価をなさるのですね。<br>・1時間の流れを示し、ねらいを明確にし、先生が何を求めているかが児童にわかることで、学びやすくなっていると思います。<br>・先生、子どもたち、共に良い感想が報告されているようなので、この報告いただいた内容からは問題は無いと思います。但し、クラス内で学力の格差が生じていないかという疑問は少しあります。 |
|      | ② すべての授業において、「ねらいをつかむ」「学び合う」「振り返る」を大切に授業を推進する。                          | 2     | ○肯定的な回答の割合が65%である。<br>○ねらいを明確にし、自分で考える時間、友達と考えを深める時間を設定した。振り返りを授業の最後に取り入れている。<br>○黒板の板書やパワーポイントでの授業づくりを通して、ねらいが明確になり、学びに集中する場面が多かった。<br>○ねらいや課題、問題は毎時間書くようにして、子どもがそれを意識して45分学ぶようにしている。<br>■振り返りを授業の最後に取り入れてきたが、毎回継続して取り組めなかった。<br>■振り返りは、視点を示す場面が少なく感想になってしまうことが多かった。<br>■毎回振り返れていないが、単元の終わりには振り返りをしていくことを続けたい。             | 2     | 4     | ○教員の肯定的な回答の割合は、約76%である。児童には学習の理解についての質問で、肯定的な回答が約96%となり、非常に高い値である。<br>○学習の終末に書く感想やまとめ、毎日のふりかえりジャーナルに継続して取り組むことで、学びを振り返り、次にあてをもつ力が育った。<br>○1時間の流れを示したり、ねらいを明確にすることで、児童に見通しをもって学習に取り組ませることができた。<br>■振り返る時間を設定できないことが多かった。               |  |
| 健全育成 | ① いじめを許さない風土の醸成のため、教師の言葉を含む言語環境を整えるとともに、場に応じた言葉や温かい言葉を使うよう指導をする。        | 4     | ○肯定的な回答の割合が92%である。<br>○自分の話す言葉を丁寧にし、良いところを見つけ褒めるように気をつけている。友達を傷つける言動については、厳しく指導している。徐々に温かい言葉が増えている。<br>○自分が話す言葉を丁寧にすること、子どもたちを「くん、さん」をつけて呼び、良いところを見つけ褒め、自己肯定感を育んできた。温かい言葉が教室でも増えている。友達を傷つける言動については、厳しい態度でのぞみ、指導している。<br>○アンケートや子どもからの日々の相談を通して、問題が大きくなる前に話をしている。教師からもっと温かい言葉を伝えられるようにしていく。                                  | 4     | 4     | ○教員の肯定的な回答の割合は、100%である。<br>○児童の「気持ちのよいあいさつや、ていねいなことばづかいができましたか?」に対する肯定的な回答は約91%である。<br>○道徳や学級活動を中心に児童の社会生活に必要な環境を整えようと努めた。<br>■登下校時のあいさつについて、保護者アンケートの記述には、「気持ちのよいあいさつをしてくれる」と「あいさつが返ってこない」の両方の意見がある。あいさつの輪を校内から地域へと広げていく取組を考えたい。     | ・全体的に高い達成感が実感できているようで、各クラス、各学年、学校全体が良い雰囲気のスパイラル構造になっている感じがします。問題があった場合、他人事ではなく、小さなコミュニティーの問題として対応する環境が自然にできているのかも知れないですね。<br>・比較してはいませんが、地域にもいろいろあります。青葉地域として「青葉小はいい学校だよ」と自信をもって言える学校だと思っています。何をもってそういうか・・・と問われそうですが、校長先生はじめ全教職員のご指導の賜物と感謝しています。<br>・いじめを許さない風土が根付いたと、感じます。以前は、校庭で休日のクラブ等の監督・コーチの目の届かない所で集団で、いじめ等がありました。現在は見受けなくなりました。学校及び先生方の教える成果だと思われそうです。  |
|      | ② どの児童に対しても同じ判断基準で、あいさつや言葉遣い、学習規律について、ほめる時はしっかりとほめ、叱る時はしっかりと叱ることで定着を図る。 | 4     | ○肯定的な回答の割合は96%である。<br>○どの児童に対しても、危険なことや人を傷つけることなどは、しっかりと叱った。全体的に、学習規律や話の聞き方等の指導をしているが、配慮の必要な児童には、基準を下げ、他の児童にも納得する説明をし、理解してもらっている。<br>○危険なことや言葉遣い、学ぶ態度などについて指導している。時間の厳守、話を聞くときの態度について指導している。ほめ言葉のシャワーを浴びることで、子どもたちはポジティブに活動している。<br>○代表委員から出されたあいさつカードを使って、あいさつへの意識を高めている。朝の検温カードチェックを廊下で一人ずつ行い、その際に、あいさつをしっかりする習慣をつけている。   | 4     | 4     | ○肯定的な回答の割合は、教員が100%である。<br>○児童の「学校のルールを守って生活できましたか?」に対する肯定的な回答は約94%である。<br>○学校生活のルールについて、改めて児童と確認し、実行できている。<br>○学年の枠を超えて廊下等で児童に声を掛けるなど、意識付けの声掛けと指導を続けている。   | ・青葉小学校の子供たちは、基本あいさつができていて感じています。自ら言うことができる子は少ないかもしれませんが、大人が先に見本となってあいさつすれば反射的にできると思っています。今後あいさつを中心に健全育成を続けていきたいです。<br>・あいさつ運動について。低学年は先生の存在が大きく、約束を頑張っています。高学年は意識あるが自意識が始め恥ずかしさもありません。先生、PTA、地域の人達が関わり合う事がより必要だと思います。しかし、1～2年前と比較すれば、格段に変化し浸透しています。学校周辺で出会うと声をかけていますが、大きな声であいさつする機会が増えています。<br>・あいさつに対しては、登下校のあいさつは99%できていて感じます。上級生がしっかりとすれば、下級生がついてくるのが、明確に表れています。  |

|            | 具体的方策  | 第1回評価 |  | 第2回評価 |       | 第2回学校運営協議会評価  |   |
|------------|--|-------|--|-------|-------|---|---|
|            |  | 努力目標  | 成果と課題  | 努力目標  | 成果と課題 |   |   |
| 健康・体力づくり   | ① 毎日ハンカチや手拭きタオルの持参、マスクの着用を徹底し、授業、遊びや運動後、給食前には必ず手洗いをすることや友達と話をする時などにはマスクを着用することを指導する。 | 4     | ○肯定的な回答の割合は92%である。<br>○徹底した声かけで、指導している。<br>○徹底してできるように声をかけている。<br>■その都度、声をかけ取り組んでいる。指導しているが、どうしてもマスクを外してしまう児童がいるので、理由を何度も説明し、理解してもらおう。   | 4     | 4     | ○教員の肯定的な回答の割合は、100%である。<br>○朝の健康観察と一緒にハンカチとティッシュの持参を確認した。<br>○児童に度々、注意喚起を促しながら、一人一人が徹底した手洗いと体調管理をすることを意識させることができた。<br>○児童の感染症対策に対する習慣についての肯定的な回答は、約95%である。  | ・コロナ禍で、感染症対策について大変大切なことを子供ながらに学び、注意し、意識していると思います。友達同士でも助言し、気を緩めないように、今後も習慣付けてほしいです。<br>・コロナ禍において、児童の行動、学校行事が制限される中、きめ細かく一人一人に対応され、献身的な行動をPTAの皆様も強く感じており、先生方の児童を思う行動に感謝いたします。<br>・毎朝の、登校時に先生が、一人一人に声掛けし健康観察を実行されているのを、遠方から見受け感謝しております。児童の保護者はご存じないと思いますが…。<br>・健康(衛生)面では、各自が意識し皆で協力して実施されていると思います。先生方にも色々とお気を使っけて頂いて、ご苦労をおかけしていると思います。 |
|            | ② 運動の楽しさにふれさせる指導を工夫すると共に、「青葉タイム」や休み時間の外遊びを奨励し、教師も共に遊ぶようにする。                          | 1     | ○肯定的な回答の割合は29%である(評価不能の回答を除く)。<br>○運動の楽しさにふれさせる指導については、十分にできた。<br>■新型コロナウイルス感染症対策のため、クラス遊びや外での遊びを取る機会が減った。また、熱中症指数もあり、外遊びを推奨する時間が多くなかった。<br>■感染症対策で青葉タイムがなくなり、朝は室内で過ごすことが多かった。休み時間は、できるだけ一緒に外に出て遊んだが、多くはなかった。体育の時間を通して体を動かす楽しさを指導していく。 | 1     | 2     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約50%(評価不能の回答を除く)で、第1回評価の29%を大きく上回った。<br>○今までできなかった運動にチャレンジする子が増えた。<br>○体育の学習で学んだことが休み時間の遊びに発展した。<br>○児童の外遊びに対する肯定的な回答の割合は、約73%であった。昨年度より11ポイント下がっている。<br>○保護者に対しての、子供に運動の習慣がついているかの質問では、肯定的な回答の割合が約63%であった。<br>■青葉タイムの実施はできなかった。 | ・多くの制約のある中でも、子どもたちは、外遊びや運動も努力している様子が、73%に表れていると思います。先生方もいろいろと工夫してくださっていると思います。昨年よりポイントが下がっても問題なしと思います。<br>・体育の学習で学んだことが休み時間の遊びに発展したというのは、素晴らしいことだと思います。教育の成果ですね。<br>・運動については、いろいろと制約がありますが、今後はアイデアを出して子供たちが楽しめる方向を考えられたら良いと思いました。   |
| 保護者・地域との連携 | ① 学校運営協議会を年間6回開催すると共に、あいさつ運動など児童とともに取り組む活動を実践する。                                     | 3     | ○肯定的な回答の割合は89%である(評価不能の回答を除く)。<br>○学校運営協議会では、委員さんとの交流もでき、共に育てていく気持ちを共有できよかった。<br>○学校運営協議会は、コミュニケーションの量を増やすことで、教育活動の意義や、児童理解について考えが共有できるので有意義だった。   | 3     | 2     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約83%(評価不能の回答を除く)、保護者が約77%である。<br>○地域の方と共に、代表委員会の児童を中心にあいさつ運動を始めることができた。<br>○学校運営協議会を年4回(予定は6回)実施することができた。<br>○コミュニティースクールについて協議し、方向性を確認することができた。   | ・代表委員が朝のあいさつ運動に参加を始めたことはとてもうれしく思います。<br>・学校との連携で、PTA・児童・年少対・青葉安心ネットの連携で「あいさつ運動」が、毎月第2月曜日に実施できた。<br>・保護者のご意見は分かれていて厳しい声もありますが、気持ちはあっても声に出せなかったり、下を向いてしまったりと、表現することが苦手な子どももいます。子どもの側に立って、気長にやさしく見守っていただけるとありがたいです。<br>・授業参観ができなくなり、どこで学校の情報を得るにか、マチコミはとても安心できる一つの情報であります。<br>・今週の青葉小学校。素晴らしい活動、行動記録です。昨年のアンケートと違い今年はPTAの感謝の気持ちが現れています。  |
|            | ② 学校ホームページ等で、毎月の教育活動を周知する。   | 3     | ○肯定的な回答の割合は87%である(評価不能の回答を除く)。<br>○特に臨時休業期間中は、ホームページを活用し、様々な情報を載せていた。マチコミメールも効果的に活用し、教育活動の様子等を伝えられていたと思う。<br>○基本的なことは分かるようにアップされていると思う。<br>○学級のことは学級通信を発行することで教育活動を伝えている。  | 1     | 3     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約53%(評価不能の回答を除く)、保護者が約89%である。<br>○マチコミメールをタイミングよく有効に活用することができていた。<br>○保護者アンケートの記述には、「マチコミをたくさん活用してくださっているので校内の様子がよくわかります。今年度は学校での参観がなかったのでありがたかったです。」という意見があった。  | ・学年だよりもIT対応で見られると、学年ごとの様子が見られてよいと思います。<br>・学校ホームページで、学校の様子が大変よくわかります。マチコミは、犯罪情報もいち早くわかり、見守りにも十分活用しています。<br>・マチコミの利用は良いと思いますが、全体的に時代遅れ感が大きいです。日本の公的な機関の時代遅れが世界的に暴露されてしまったので、民間企業なみへのパラダイムシフトが学校にも普及する事を期待します。  |

|           | 具体的方策                            | 第1回評価 |   | 第2回評価 |       | 第2回学校運営協議会評価   |   |
|-----------|----------------------------------|-------|---|-------|-------|--|---|
|           |                                  | 努力目標  | 成果と課題   | 努力目標  | 成果と課題 |  |   |
| 特色ある学校づくり | ① 年間計画を作成し、各学年で多磨全生園での教育活動を実践する。 | 1     | ○肯定的な回答の割合は53%である(評価不能の回答を除く)。<br>○元ハンセン病患者の方に学校に来てもらって、交流している。訪問することが難しいが、年間で継続的に触れ合う機会をもち、人権学習を進めていけるようにしている。<br>○今年は、全生園への訪問ができないが、工夫して交流の機会を増やせたことは青葉小の子どもたちにとって、いい展開になった。<br>■計画はしていたが、コロナ禍で実施はできていない。<br>■新型コロナウイルスの影響により、児童の活動に制限があったためできていない。<br>■今年は、新型コロナウイルスの影響により、全生園への訪問ができなかった。 | 1     | 4     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約46%(評価不能の回答を除く)、児童が約94%である。<br>○児童・保護者に対する質問は、「いのちや人権についての学習」に対するものとした。<br>○コロナ感染症予防をしながらの中では、よくやれた方だと思う。<br>○今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため年間指導計画を変更し、回復者の方たちやボランティアをされている方々にゲストティーチャーとして来ていただき話を聞くことができた。子どもたちが通学路で、あいさつをすることができるようになる交流が生まれ、意義深い学習となった。<br>■今年度、多磨全生園での教育活動はできなかった。 | ・コロナ禍で学習内容や活動が制限され、今までのことができていない中で、できる範囲での活動は先生方のおかげであります。ありがとうございました。これからも一度しかないこの瞬間を大切に、友達との思いや学びの活動ができるように願って、実施できたらと思います。<br>・全生園での「人権教育、いのちの大切さ」教育は、親も子供たちも真剣に取り組み非常に大切な授業になっているのではと思います。コロナ禍でも工夫され青葉小学校の特色であり、数年の研究を生徒の記録誌としてまとめたらどうでしょうか。<br>・ここは、今年度は致し方ないと思います。コロナ禍にあっても、先生方がいかに工夫、努力して、例年にない形の活動・行事を作ってくれたかがよくわかります。(今週の青葉小学校をみて)<br>・いろいろな人とのコミュニケーションが制限されている中での活動は、なかなか難し状況だと思いました。これからは、新しいコミュニケーションの形ができると思いますので、子供たちの好奇心が更に膨らむと良いと思います。 |
|           | ② 学校内、学校外における交流活動を計画的に行う。        | 1     | ○肯定的な回答の割合は60%である(評価不能の回答を除く)。<br>○新型コロナウイルスの影響により、今までできていた交流活動の制限がある。その中で、協力いただける方をお願いをして、交流させてもらっている。<br>○訪問することが難しいが、今後、地域の消防署の方からAEDを使っての救命講習を行う予定。<br>○視覚障がい者との交流を計画している。<br>○内容は検討済み。3学期に実施できるかこれから交渉。<br>■計画はしていたが、コロナ禍で実施はできていない。<br>■新型コロナウイルスの影響により、児童の活動に制限があったためできていない。           | 1     | 4     | ○肯定的な回答の割合は、教員が約47%(評価不能の回答を除く)、児童が約93%である。<br>○活動の制限の中でも、感染症に留意して、できる範囲で活動を行うことができたと思う。(社会科見学、救命講習、なわ跳び、そろばん、防災についての講話、馬頭琴等)<br>■コロナ禍のため、活動を制限されることが多く、予定変更や中止することがあった。   |   |

その他  
・新指導要領による新しい試みの上にコロナ感染症予防への対応、先生の負担は並大抵ではなかったのでは。益々先生のサポート体制、又1教室の児童数減等々。課題が一日でも早く解決することを願っています。  
・この前、校長先生にも少しだけお話ししましたが、クラスの人数を増やすと言う事は、教室に入る人数が増えると言う事です。更に、学年が上があれば、体格も大きくなって、教室内のぎゅうぎゅう感が増すと思います。SDGSでは質の高い教育という目標がありますが、質とは教育の内容だけではなく、教育を受ける環境も含まれるのではないのでしょうか？ソーシャルディスタンスは2メートルです。机と机の間が1メートルで良いのか？と疑問に思います。この辺は、市の教育委員会が考える問題なのか？この会では、このような問題をリストアップするような事も必要ではないかと思いました。